

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『待降節・ミカ ⑫—人よ、何が善なのか？』

武田真治牧師

ミカ書 6：1-8 ローマ手紙 12：1-2

今日のミカ書6章には、昔から様々な場面で用いられてきた有名な言葉があります。それが8節の「人よ、何が善であり、主が何をあなたに求めておられるかは、あなたに告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである。」です。アメリカのある大統領がその就任式の時、わざわざこの聖書の箇所を開いて、そこに手を置いて「宣誓」を行ったことは有名ですし、最近でも著名な旧約学者であるフォン・ラートがこの箇所こそ『(旧約の)律法の真髄である』と呼び、高く評価しています。今日は、預言者ミカがこの言葉をどのような状況で人々に取り継いだのかを見ることで、更にこの言葉の持つ意味深さを更に聞くことができるのではないかと願っています。

1節からミカは「聞け、山々よ、主の告発を。」と叫んでいます。ここに「告発」という言葉がありますように、これは“裁判”を行おうというのです。誰に対する告発かと言えば「主は御自分の民を告発し、イスラエルと争われる」とありますから、今まで愛し導いて来られたエルサレムの住民に対してです。その際「聞け、山々よ」と言っているのは、まさにこの裁判の陪審員としてエルサレムを取り囲んでいる山々に問うていることとなります。なぜ、山々なのかと言えば、それは今迄の歴史をずっとそこで動かないで見て来た(=証言者として存在ということでしょう)。

その上で告発の言葉が語られます。『わが民よ、わたしはお前に何をしたというのか。何をしてお前を疲れさせたのか。私に答えよ』と。これは神様に背いた民に“弁明”を求めておられ、更に続けて『わたしはお前をエジプトの国から導き上り、奴隷の家から贖った。また、モーセを〜』とこれまでの神様が民のためにどれだけ恵みの業を為して来たか、その歴史が語られます。なのに、この時、彼は主なる神様と一緒に歩むことに「疲れた(=飽きる、つまらない)」と言っ

ているのです。どうしてそうなってしまったのかと。確かに当時のエルサレム神殿での献げ物や祭儀の仕方は煩わしく、律法や食物規定は生活を事細かに規定していました。でも、それらは神様が与えられた祝福への感謝の形ではなかったのかと。ここには神様の深い“哀しみ”が表されています。

ミカは「幾千の雄羊、幾万の油の流れを、主は喜ばれるだろうか」と問い直しています。その上で最初に引用した8節の言葉を伝えているのです。「正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと」を何より喜ばれるのだと！

この言葉は、今の私たちにこそ与えられている教えです。少しでも、私たちの生き方や存在そのもので、神様への感謝の生活を生きて行きたい。そして何より、生涯を“主と共に”生き抜いていくものでありたいと願います！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月20日(水) 20:00
II. 12月21日(木) 10:30

聖書：ハイデルベルク信仰問答

祈祷主題：クリスマス礼拝・燭火礼拝を覚えて

担当者：(水)阿部 (木)黒川

祈りに覚える人：中村さん 奈良さん

【教勢報告】

主日礼拝 男21 女53 計74
祈祷会 I. 男5 女2 計7 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科10 小中科7 計17
ハンナの会(12月12日(火)) 男2 女9 計11

【次週主日礼拝】 12月24日(日)

聖書：ミカ書 6：9～7：7

ヨハネによる福音書 1：1～5

説教：「クリスマス・ミカ⑫—主は私の光である」

武田真治牧師

讃美歌：242(1～4)、268(1)、32、聖歌隊II-56
255、259、67(1～2)、75(1～2)、92(1)

【次週当番表】

司式：坂田長老 奏楽：中村 礼拝：茨木長老

配餐：金刺 金刺 齋藤 羽倉

保坂 各長老

献金：村上 森本 受付：金刺 坂田

会堂準備：大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板：中村 週報：飯島 お花：飯島

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後：・伝道委員会 ・「燭火礼拝」 17:00～

2023年 12月 17日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>